



令和5年  
3月7日(木)

### 夢と志が未来を創る

本日、市長様、地域関係者の皆様方ご臨席のもと、**第四十八回卒業証書授与式**を挙行し、卒業生六十六名が旅立ちの時を迎えました。  
祝辞の中で、「君たちはどう生きるか」地域住民の一人として」と題して実施した特別授業における感想をもとに、**卒業生が夢と志をもって未来へ羽ばたくよう激励**しました。

また、私自身の卒業式に当時の校長先生から贈られた話を伝えました。**四十有余年の時を経て、思いが受け継がれていくことを願っています。** 祝辞の概要につきましては、裏面に掲載いたしました。  
一読いただければ幸いです。

保護者の皆様方におかれましては、**九年間の義務教育**を今日終えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。日々の子育ての葛藤の中、常に温かい御慈愛を注いでこられたことに篤く敬意を表し、また、本校教育にご理解とご協力を頂きましたことに深く感謝致します。

本日、卒業式にお招きすることがかなわなかった方々を含め、常に生徒たちを温かくお見守り下さいました皆様方にお礼とお祝いの言葉を申し上げます。



学校図書館司書さんからのメッセージ



生徒会スローガン 2023

### 「学校日誌」(学校HP)から

二月二十六日

一、二年生は学年末テストの答案返しのリッシュのようです。できなかった問いに挑み、疑問点をただすこの取組は、**学びにとつてなくてはならない過程**であると思います。

三年生はすでに前期選抜や私立高校に内定している生徒も油断なく、**新たなステージへ向けて目標を立てていること**と思います。目先でなく**常に数歩先を見つめ今を**生きたいものです。

二月二十七日

「オンライン交流会」がありました。生徒会役員および各部活動キャプテンより、水沢小・小山田小の六年生に向けて、**学校生活や部活動の紹介**を行いました。中学校の環境やきまりなどについての質問に一つ一つ丁寧に答えました。

二月二十九日

学校医・学校歯科医・学校薬剤師の皆様を講師にお迎えし、**学校保健委員会**をオンライン開催しました。今回は、将来に向けて歯と口を健康に保つためにどうすればよいかを考えました。虫歯がない生徒の割合は現在八〇%と以前よりよい状態ですが、虫歯でない歯を歯周病で失うケースも多く、**歯の健康が他の疾病に影響**することも知りました。今後もしっかりとオーラルケアを進めたいと思います。

三月五日

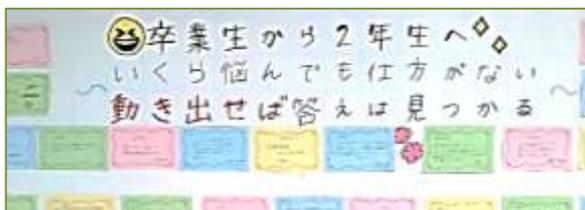
卒業式の練習の後、表彰伝達(下記参照)を行いました。**各教科や部活動での地道な頑張り**を心から称えたいと思います。

### 卒業生からの贈り物

明日から西陵中学校を背負って立つ在校生たちへの卒業生からのメッセージ(下)が中央廊下に掲示されています。

明日からの日々の中で、一人一人が残した**感謝の気持ちや温かく後輩たちを見守る思い**を深く味わってほしいと思います。

そして、入学してくる新入生にとって卒業生たちのように**大きくまぶしい存在**となれるよう頑張っていきましょう。



【三四小中学校書写展覧会】

出品

割愛

【三四小中美術展覧会】

出品

割愛

【バレーボール部】

三四選手権大会ブロック優勝

【三重県小中学校書初め展】

佳作

割愛



## 祝辞（抄）

《前略》卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんを加えて本校の卒業生は約五千名となりました。旧三鈴・水沢両中学校を併せると、その数は一万名を超えます。地元をはじめ、本市や県内外の、さまざまな分野で活躍し、それぞれの人生をたくましく切り拓いてこられた先達の仲間入りを果たしたことを心より祝福します。

さて、皆さんは、「雪峰の 大三角を鎌という」と俳人・山口誓子の句にも詠まれた雄大な鎌ヶ岳を仰ぎつつ、鈴鹿山麓の豊かな自然や広大な農地に囲まれ、三年間を過ごしてきました。この素晴らしい郷土は、先人たちが厳しい冬の寒さに耐え、土地を拓き、夏場の水不足との闘いの中で多くのため池や用水などの灌漑設備を築き、遺してくれた財産そのものです。

しかし、今や故郷は、少しずつその様相を異にしています。激しく移り変わる社会の動きは、地元を支えてきた製茶を中心とした農業をはじめ、古くからの小売業、昔ながらの建築・鉄工など地域に根付いてきた諸産業の形態を変え、流通や交通、景観や人口動態などに影響を与えています。

それに関わり、先日、皆さんは、名古屋大学大学院で環境学を研究されている先生のご指導の下、科学的なデータに基づく小山田・水沢地区の未来予測のシミュレーションをもとに考え、地域活性化の多くの成功例について学ぶ機会を得ました。

この取組により、地域には、新たな可能性を秘め

た土地、そして、人々が豊かに暮らせる町という、貴重な資源があることを再認識しました。

高野先生からの「君たちはどう生きるか」という問いに対する皆さんの答えは次のようなものでした。「自分たちの地域のことなのに、これまでは他人事のように感じていた。これからは、自分の一つ一つの行動を考えて生きていきたい。」「豊かな自然や茶畑などを引き継ぎたい。」「大学卒業後は地元で就職して地域を守っていきたい。」「水沢・小山田には魅力がある。その魅力を発信したい。」「また、」高校卒業後は、他の都道府県に行って自分の夢を実現するために学びたい。しかし、いずれは四日市に戻り、地域が抱えている問題について一緒に考え続けたい。」など、その答えは、思いにあふれたものでした。

将来、故郷を出るのか、住み続けるのか、いったん出てまた戻るのか、その選択は皆さんに任されています。ただ一つ確かなことは、皆さんたち一人ひとりこそ、先人たちが残した財産であり、地域の資源そのものだという事です。しっかりと現実と未来とに向き合い、事実を正しく認識したうえで、じっくりと考え、自己の生き方を明確に持つことを期待したいと思います。

生き方を考えるうえで、一学期に道徳で「父のひと言」という教材をもとに、「責任」について、皆さんは考えました。元・上野動物園長の中川さんが若き頃、挫折して郷里に帰った時、中川さんは、「お前のカワウソがさみしがっているぞ」とい

う、父のただその一言に翻意して、動物園に帰ったという話でした。動物の命を守る仕事を通じて、「職責」というものの重さを知りました。「社会的責任」「法的責任」「賠償責任」…、様々な責任があります。責任はなぜ果たさなければならぬのか。誰かに迷惑がかかるからなのか？それも答えかもしれませんが、責任を全うしようとする自分自身の生き方に誇りを持ち、強く、よりよく、高く生きてほしいと私は願っています。

最後に、卒業に際し、伝えたい話がもう一つあります。それは、昨年の卒業式でも披露しましたが、本校の第三回卒業式において私たち卒業生が初代校長先生から贈られたものです。先生は、私たちに、片手を顔の前にかざすように言われました。そして、突然、「自分の鼻が邪魔になっていませんか？」と問われました。そういえばそうかと考えていると、「邪魔になったのはいつからですか。」と私たちに畳みかけました。その時、初めは全く鼻を気にしていなかったことに気付かされました。これは、おそらく禅の教えを踏まえ、心の不思議さ・複雑さを伝える、貴重なお話だと思えます。

気になること、悩み事がある時は、自分の心を静かに見つめ、視点や角度を変えてみてください。また、決して一人で抱え込まず、弱みをさらけ出す強さを持つてください。励まし、支え合える豊かな人間関係をもとに、幾多の試練や危機を解決し、未来に無限に広がる世界を逞しく切り拓いてくれることを期待し、餞の言葉とします。《後略》